

議論始まる量的緩和縮小、決定まで至るか～ECB理事会

2017年9月4日(月)

今週は何といっても7日のECB理事会に注目が集まっています。
ドラギ総裁は秋の理事会で現行の債券購入プログラム(QE)について議論を開始すると表明しており、
今回の理事会で何らかの決定もしくは今後のヒントが出てくるのかが注目されています。

ユーロ圏の物価動向などから、次の決定はQEの縮小(テーパリング)に向かうとの見通しが一般的ですが
今回の理事会でどこまで踏み込んでくるのがポイントとなります。

現行の債券購入プログラムは、12月末が期限となっており、
今月に加え、10月26日、12月14日が予定されています。

今回の理事会から議論が開始されるという総裁の発言を考えると
今回の早急に結論まで出すのは急ぎすぎという印象もあります。
ただ、今回の理事会は四半期毎の経済見通しを発表する回にあたっています。
米FOMCや英MPCと同様に、こうした回は、それ以外の回に比べて金融政策の変更が起こりやすいと見られています。
次に見通しを発表する12月はさすがにギリギリすぎということもあり、
今回の理事会に期待する動きもあるようです。

ただ、今回の理事会で決定する場合は
それまでにある程度議論がある方が自然だと思われます。
先日のジャクソンホールでも見通しを示してこなかったように
ドラギ総裁は今後については決定的な姿勢を示さず、
かなり柔軟に対応する姿勢を示してきたことから
今回の理事会での決定は難しいかもしれません。

一時1.20を超える場面が見られるなど、
ユーロ高の動きが進んでいることもテーパリングに慎重になる材料となる可能性があります。
テーパリングの決定は基本的にはユーロ買い材料であり、
今回の理事会で開始が決定された場合、ユーロはもう一段高になることが予想されます。
それだけに理事会としても慎重な判断を行う可能性があります。

テーパリングについて、決定もしくは次回以降のヒントになるような発言が避けられ
次回以降の決定という形で先送りされると
ユーロはいったん重くなる可能性もあります。
ドラギ総裁は基本的に慎重な姿勢を示してきただけに、
こちらの可能性にも要注意です。

なお、今週は5日に豪中銀(RBA)も政策金利を発表します。
今年前半はやや厳しい状況が意識された豪経済ですが
主要輸出品である鉄鉱石の価格回復や
同じく主要輸出品である石炭価格の上昇などを受けて
景気はかなり上向いてきたと見られています。

豪州国内の経済状況を見ても、
今週発表された4-6月期の豪建設工事完了推定額が
前期比+9.3%と予想の+1.0%を大きく上回る好結果となり、
第1四半期の数字も-0.7%から+0.9%に上方修正されるなどかなり好調な数字となりました。
前期比+9.3%は1987年9月の統計開始以来最高水準であり
豪州内の好景気を意識させる結果となりました。
6日に発表される4-6月期GDPも強めの数字が期待されており、
RBA理事会でも前向きな姿勢が示される可能性があります。

政策金利自体は現状維持見通しで一致していますが、
今後の利上げの可能性についての言及が出てくると、
豪ドル買いの動きが広がる可能性があります。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。
最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社エムサーフ」及び「株式会社みんかぶ」では責任を一切負いかねます。「株式会社エムサーフ」及び「株式会社みんかぶ」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社みんかぶに帰属し、株式会社みんかぶの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社エムサーフ及び株式会社みんかぶ